慶應義塾大学学術情報リポジトリ Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	多地域型地縁コミュニティの形成を支援する評価手法とファイナンス手法の研究・開発
Sub Title	Research and development of evaluation method and finance method to support formation of multilateral community
Author	玉村, 雅敏(Tamamura, Masatoshi)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2018
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書(2017.)
JaLC DOI	
Abstract	これまでの「地縁コミュニティ」は、 同一地域において生活を営むことで成り立ってきたものであるが、ICTの活用により、 それぞれの個人は異なる地域にて生活していても、地縁のつながりを維持することができる「多地 域型地縁コミュニティ」が成り立つ可能性がある。 本研究では、多地域型地縁コミュニティの概念構築を行った上で、 その成立を支援する「多地域型地縁コミュニティにおける共有価値の可視化手法」と、ソーシャル ・インパクト・ボンドの知見を活かした「多地域型地縁コミュニティ支援のファイナンスモデル」 の研究・開発を推進している。 研究1年目の本年度は、 多地域地縁型コミュニティの求心力の向上や協働活動を促進させるきっかけとなる、 コミュニティが重視する共有価値の可視化や定量化手法の研究を推進した。具体的には、 コミュニティ・アウトカムの可視化に関する知見や実践経験を活かし、 多地域型地縁コミュニティに親和性が高い手法や、 ソーシャルキャピタルや情報コモンズの形成手法の調査研究を行った。 Through the use of ICT, there is a possibility that a community can be established that allows each individual to live in different areas, maintaining the connection of the neighbor. In this research, after constructing the concept of a multilateral community, we will conduct research and development on the "shared value visualization method" that supports the establishment and the "finance model" making full use of the knowledge of social impact bonds. We promoted research on visualization and quantification method of shared value that community is placing, which triggers collaborative activities of community. Specifically, we made use of knowledge and practical experience concerning the visualization of community outcomes, and conducted investigative research on methods of forming and visualizing social capital and information commons.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000001-20170099

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2017 年度 学事振興資金(個人研究)研究成果実績報告書

住の戦略

	1 /2 4		* / / / =/			
研究代表者	所属	総合政策学部	職名	教授		500 (特B)千円
	氏名	玉村 雅敏	氏名(英語)	Masatoshi Tamamura	補助額	
		研	究課題(日本語	吾)		
多地域型地縁:	コミュニティの用	ジ成を支援する評価手法とファイ	イナンス手法の	研究·開発		
			F究課題(英訴)		
Research and o	development of	f evaluation method and finance			community	
		1. 쥯	开究成果実績の)概要		
人は異なる地域 本研究では、多 可視化手法」と 推進している。 研究1年目の 共有価値の可	或にて生活して 3地域型地縁□ 、ソーシャル・・ 本年度は、多± 視化や定量化	」は、同一地域において生活を いても、地縁のつながりを維持 ミュニティの概念構築を行った。 インパクト・ボンドの知見を活か 地域地縁型コミュニティの求心で 手法の研究を推進した。具体的 に親和性が高い手法や、ソーシ	することができ 上で、その成立 した「多地域型 力の向上や協慎 りには、コミュニ シャルキャピタル	る「多地域型地縁コミュニティ」 を支援する「多地域型地縁コミ 地縁コミュニティ支援のファイ 動活動を促進させるきっかけと ティ・アウトカムの可視化に関 いや情報コモンズの形成手法の	が成り立つ可 ミュニティにおけ ナンスモデル」(こなる、コミュニテ 引する知見や実	⁸ 性がある。 ◎る共有価値の D研究・開発を ティが重視する 践経験を活か
		2.研究)	成果実績の概要	要(英訳)		
maintaining the In this researc "shared value social impact b We promoted collaborative a	connection of ch, after const visualization m onds. research on ctivities of con	e is a possibility that a commun the neighbor. cructing the concept of a mul nethod" that supports the esta visualization and quantificatio nmunity. Specifically, we made onducted investigative researc	Itilateral comm ablishment and n method of use of knowled	unity, we will conduct resea the "finance model" making shared value that communi lge and practical experience c	rch and develo full use of the ty is placing, concerning the	pment on the knowledge of which triggers visualization of
		3. 本硕	研究課題に関す	「る発表		
	皆氏名 講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	()	発表学術誌名 皆書発行所・講演学会)	学術誌 (著書発行年)	
玉村雅敏・長潮	頁光市	「生産性改革の時代」の自治 営一持続的な改善や試行錯誤 す経営システムの構築		信社「地方行政」	2017/4	
玉村雅敏		つながりのチカラが支える交流	流と定地域活	性化センター「地域づくり」	2017/9	